

入学式 学校長式辞



(前略)

六十六名の新生に皆さんご入学おめでとうございます。今担任の先生方からの呼名に元気よく返事をする声や、ここから生き生きと輝くその瞳をみていると緊張感の中にも中学校生活への希望や意欲を強く感じることができます。

ようこそこの伝統ある上中中学校へ。今日から皆さんはわれわれの仲間です。新しい友達や先輩、先生方そして楽しいことがいっぱい待っています。充実した中学校生活を送りましょう。

保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。新しい制服に身を包み大きく成長された姿を見て喜びもひとしおのことと思います。本日から三年間大切なお子様をお預かりします。その重大な責務を果たすべく職員一同一生懸命努力いたしますのでご理解ご支援をよろしくお願いします。

さて、新生のみなさん。このように家族や地域の方に大切にされ、大勢の方に祝福されて入学しました。まず皆さんにお願いしたいことは何をにおいても命を大切にしてほしいということです。一人で大きくなったのではないということは一人の命でもないということです。

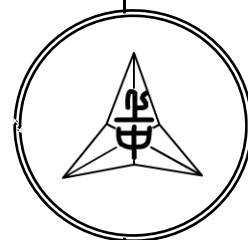
世間では事故や事件に巻き込まれ若い命を落とすという悲しいニュースが伝えられています。中にはいじめのせいで自分で一生を閉じるという悲惨な事件も時折目にします。みなさんどうぞ命を大切にしてください。自分の命を大切にできる人は、他人の命も大切にできる人です。自分の命も他人の命も大切にできる集団ではいじめは起きないはず。自分も他人も大切に学校にしていきましょう。

次に、上中中学校の入学式の式辞の中で必ず述べる話があります。みなさんのお父さんお母さんも卒業生ならば聞いたことでしょう。ずいぶん昔ですが私の入学式にも校長先生の話にあったことを記憶しています。それは、左の前面に掲げられている額の話です。右から過去の「去」幼稚園の「稚」に「心」音読みで「きょちしん」訓読みでは「稚心を去る」と読みます。これは今から百五十年ほど前、福井が生んだ幕末の志士「橋本左内」の言葉です。意味は「幼い心を捨てる」ということです。この言葉の素晴らしさは皆さんと同じ中学生のころの橋本左内が自分に対して厳しく戒めた点にあります。大人が言っているのではなく十四歳の少年が自分に対して「幼い心を捨てよ」と言っているのです。

それでは幼い心とはどういった心でしょう。幼い子どもを想像してみるとわかりやすいでしょう。幼い子は自分の思い通りにならないと泣いたり駄々をこねたりします。つまり我慢することができない、耐えることができない心です。また、うまくいかない原因を他人のせいにしたり甘えたりします。自分から行動することなく、言われたことしかしないことも幼い心と言えるでしょう。こういった心を捨てない限り立派な大人になれないと橋本左内は言っているのです。

皆さんは今日から中学生です。とてもいい機会です。この空気が張り詰めた厳粛な入学式の場で「稚心を去る」という言葉の意味をかみしめてください。そして、この体育館に入る度にこの額を見上げ稚心を去っているだろうか自分に問いかけてみてください。

みなさんのご入学にあたり充実した中学校生活が送れるよう「稚心を去る」という言葉を紹介して式辞といたします。



平成二十九年四月六日

若狭町立上中中学校 校長 竹内久典